



第665号

ジオスペース館だより

令和4年1月1日

★ 今月の星もよう ★

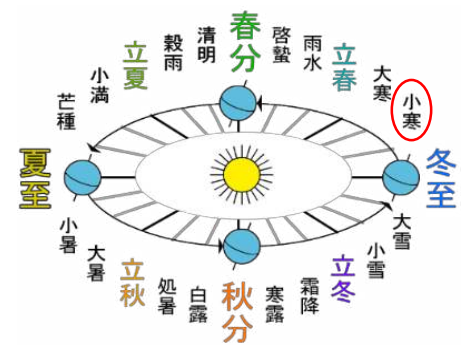
新しい年の始まりです。1月中旬夜8時頃の星空を見てみましょう。秋の星座は西に傾き、東から南の空にかけて冬の星座が広がっています。その中で、ベテルギウス・リゲル・シリウス・プロキオン・ポルクス・カペラ・アルデバランの7つの1等星が輝き、冬の夜空はとても賑やか。ベテルギウス・シリウス・プロキオンを結ぶ《冬の大三角》は冬の星座を探す目印です。そして、冬の星座で最初に昇ってくるのは「おうし座」です。おうしの右目には赤い1等星アルデバランが輝いていますが、その顔の部分にあるVの形をした星の並びは《ヒアデス星団》です。アルデバランはヒアデス星団の一つの星のように見えますが、実際には地球からの距離が、アルデバランは約60光年、ヒアデス星団は約150光年と随分と離れていて、たまたま同じ方角に見えているのです。



また、おうしの肩のあたりには『プレアデス星団』が見えます。よく見ると肉眼でも5、6個の星が集まっているのがわかります。プレアデス星団は、日本でも古くから《すばる》と呼ばれて親しまれ、平安時代の清少納言の随筆『枕草子』の一節に、素敵な星の筆頭に記されているのは有名な話です。

★ 二十四節気・1月5日は《小寒》

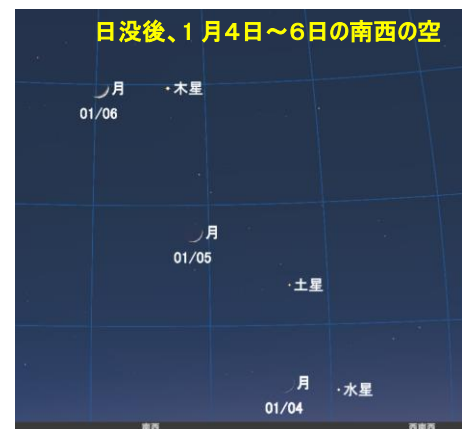
1年を24等分し、季節を表す二十四節気。1月上旬の節気は《小寒》と呼ばれ、毎年1月5日頃になります。《小寒》とは、最も寒い時期の始まりを意味し、《小寒》を「寒の入り」または「寒中」といい、次の節気《大寒》と合わせた1カ月間を「寒の内」といって、1年でも最も寒さが続く季節です。



★ 月が水星、土星、木星に接近!

1月上旬、日の入り後1時間ほどたった頃、南西の空に明るく輝く木星が見えています。木星よりも低い位置には土星、さらに低い地平線近くの位置には水星が見えます。4日～6日にかけて、この3つの惑星の近くを細い月が通りすぎ、4日には水星の左横、5日は土星と木星の間、6日は木星の左横に見えています。月が日ごとに夜空を移動していくようすがよくわかります。南西の空が開けている場所で見ましょう。

さて、1月7日は、水星が東方最大離角（太陽からの見かけの位置が最も離れる）となり、7日～11日にかけて、日の入り直後の西の低い空で、水星を見つけやすくなります。水星は低空に見えるため、西の空が開けている場所で観察しましょう。水星を見つけるチャンスです。



ステラナビゲーター11を使用して作成

★ 1月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 1/1～4(土～火)、11(火)、17(月)、19(水)、24(月)、31(月)

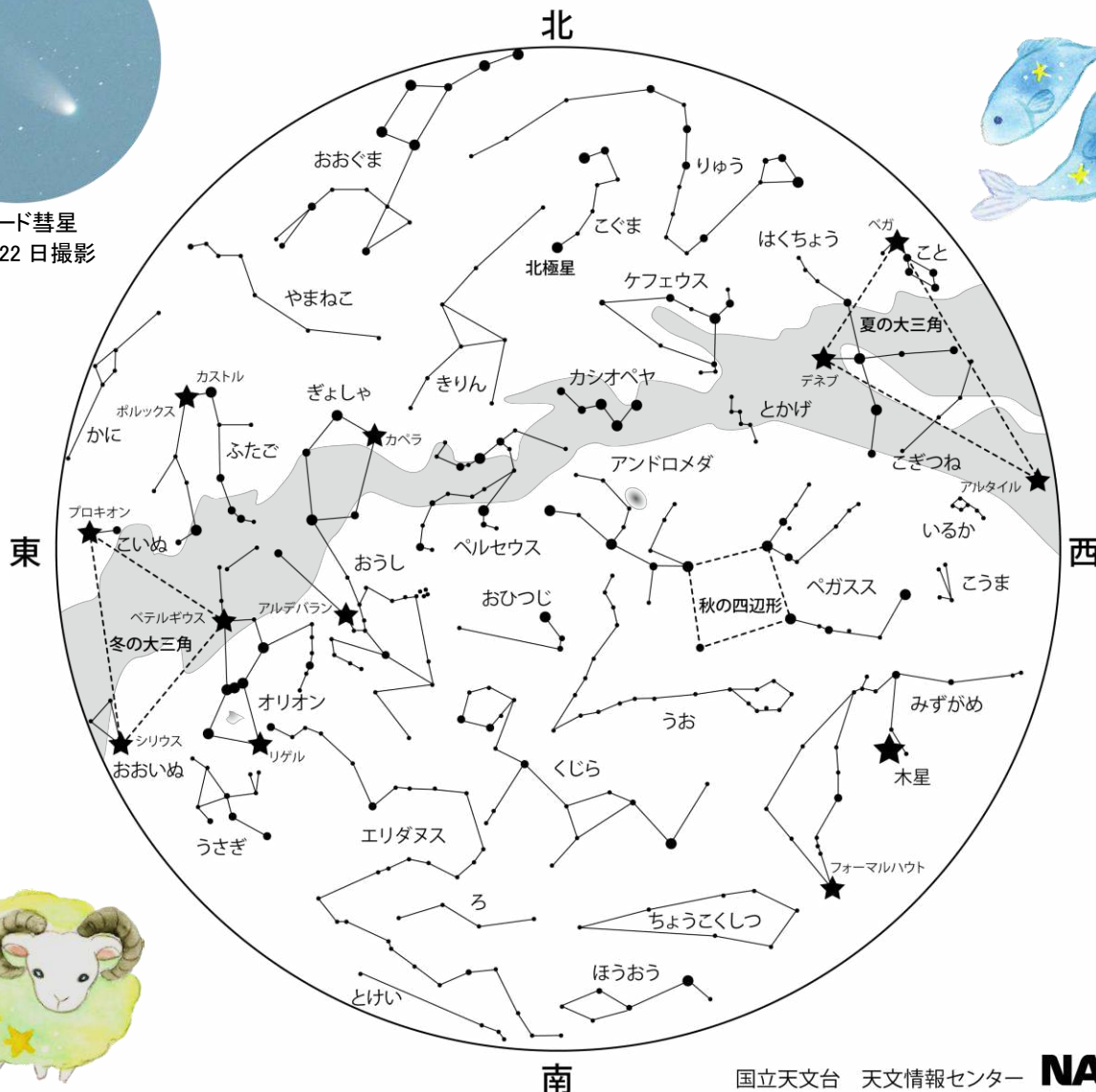
★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。



1月上旬午後7時頃の星空



レナード彗星
12月22日撮影



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 1月上旬の主な天文現象

1日(土)	細い月と火星が大接近	5日(水)	小寒、月と土星が接近
3日(月)	● 新月 レナード彗星が近日点を通過	6日(木)	月と木星が接近
4日(火)	しぶんぎ座流星群が極大 細い月と水星が接近	7日(金)	水星が東方最大離隔
		10日(月)	● 上弦
		13日(木)	水星と土星が最接近

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 1/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇	1月 7日(金)	[見やすさ ◎]	5:49	北北西	~	5:55	東南東
◇	1月 8日(土)	[見やすさ ◎]	5:03	北東	~	5:06	東
◇	1月 9日(日)	[見やすさ ◎]	5:51	西北西	~	5:55	南南東
◇	1月10日(月)	[見やすさ ○]	5:05	南東	~	5:08	南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。